

I. 一般目標 (General Instructional Objective)

耳・平衡科学の診断と治療、上気道(鼻副鼻腔・咽喉頭)疾患の診断と治療、さらに頭頸部疾患の診療に必要な基礎的診断能力と臨床的技術を修得する。

II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

1. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の一般診察を習熟し、所見をとる。
耳鏡検査、鼻鏡検査、口腔咽頭診察、咽喉頭内視鏡検査、頸部触診検査など
2. 基本的検査法を理解し、実際に検査を行い臨床応用する(評価と治療を行う)。
①自ら実施し、結果を評価する。
純音聴力検査、ティンパノメトリ、耳小骨筋反射、立ち直り検査、眼振検査、味覚検査、嗅覚検査、顔面筋電図検査などの機能検査、中耳・鼻腔・咽頭・喉頭の内視鏡検査、頸部超音波検査、喉頭ストロボスコープ、音声検査など
②指示・依頼を行いまたは指導医のもとで実施し自ら結果を評価する。
聴覚検査(語音聴力検査、ABR、自記オーディオメトリ)、頭頸部検査(頸部エコー、気管・食道直達鏡など)、頸部細胞診検査、X線検査(セファロメトリ、嚥下造影検査)など
③主な耳鼻咽喉科疾患に対する基本的手術法を理解し、下記手術*1を実際に施行する。
④耳鼻咽喉科における一般的手術の原理と術式を理解し、下記手術*2の介助を務める。

III. 方略 (Learning Strategies)

月～金の手術もしくは外来・病棟業務におけるOn the job Training、カンファランスや学会参加など

IV. 経験できる疾患・手術など

耳領域:(疾患)

慢性・滲出性中耳炎、中耳・外耳道真珠腫と腫瘍(良・悪性)、先天性耳瘻孔、顔面神経麻痺、めまい・メニエール病、耳硬化症、中耳奇形、乳様突起炎、伝音・感音難聴、外リンパ漏、(手術*1)鼓膜切開術、異物除去術、鼓膜チューブ留置術、(手術*2)鼓室形成術、乳突削開術

鼻・顔面領域:(疾患)

アレルギー性鼻炎、急性・慢性副鼻腔炎、鼻中隔彎曲症、鼻・副鼻腔腫瘍(良・悪性)、鼻出血、鼻涙管狭窄症、副鼻腔真菌症、歯性上顎洞炎、(手術*1)鼻出血止血術、鼻中隔矯正術、(手術*2)内視鏡下鼻副鼻腔手術、上顎洞根本術

口腔・咽頭領域:(疾患)

急性・慢性扁桃炎、病巣感染症、扁桃周囲膿瘍、扁桃肥大、アデノイド増殖症、睡眠時無呼吸、口腔・咽頭腫瘍(良・悪性)、がま腫、下咽頭梨状窩瘻、異物、副咽頭間隙膿瘍、(手術*1)口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、唾石摘出術、(手術*2)口腔・咽頭腫瘍切除術、扁桃周囲膿瘍切開術

喉頭・気管・食道領域:(疾患)

反回神経麻痺、嚥下障害、急性喉頭蓋炎、声帯結節、声帯ポリープ、ラインケ浮腫、喉頭肉芽腫、喉頭・気管・食道腫瘍(良・悪性)、異物、喉頭のう胞、上気道狭窄・外傷、痙攣性発声障害、(手術*2)顕微鏡下喉頭微細手術、異物除去術

頸部領域:(疾患)

甲状腺・耳下腺・顎下腺腫瘍(良・悪性)、顎下腺炎、上皮小体機能亢進症、頸部腫瘍・膿瘍、原発不明頸部悪性腫瘍、正中・側頸のう胞、頸部リンパ節炎、バセドウ氏病、縦隔腫瘍、(手術*1)気管切開術、唾液腺摘出術、(手術*2)甲状腺切除術、頸部腫瘍摘出術、頸部郭清術、喉頭摘出術、咽頭喉頭頸部食道摘出術・再建術、嚥下機能改善術、誤嚥防止手術、頸部膿瘍切開術

V. 評価 (Evaluation)

退院サマリー、手術記事、症例レポート・minimumEPOCによる自己評価・指導医評価。指導医・看護師などによる形成的評価。

VI. 指導者と研修施設

1. 診療部長 梅野 博仁
2. 指導責任者 千年 俊一
3. 指導医 小野 剛治、進 武一郎、三橋 拓之
4. 研修施設 久留米大学病院

VII. 週間予定

月	8:45	新患・退院患者紹介
火	8:05	モーニングカンファランス(術前・症例検討会)
	8:45	新患・退院患者紹介
	9:00	教授回診
	17:00	退院症例検討会
	18:00	医局会
水	8:45	新患・退院患者紹介
木	8:45	新患・退院患者紹介
	18:30	病理検討会
金	8:05	モーニングカンファランス(術前・症例検討会)
	8:45	新患・退院患者紹介
	9:00	教授回診
土	9:00	病棟業務(午前中)

